

謹賀新年



天満宮

題字／後西天皇御宸筆

季刊
新年号
平成29年1月
Vol.13

特集

- ◆ 天神さまと私
数学者・評論家藤原正彦氏を招き、宮司特別対談
- ◆ 「北野大茶湯」をしのび献茶祭 厳かに斎行
- ◆ 北野神輿の比類なき歴史(一) — 天皇と神輿 —
天皇の輿を昇く人々によって昇かれた北野の神輿

京都文化博物館学芸員

西山 剛

北野天満宮の由来

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国の天満宮・天神社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天暦元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の乾の地にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満天神」の神号を賜り、さらに朝廷・皇室の崇敬を受け二十二社に加えられ、臣下として初めて官幣中社に列格され国家鎮護・皇城鎮護の神として崇められました。今や天満宮・天神社は全国に約一万二千社と広がっています。

寛弘元年（一〇〇四）、一條天皇がはじめて行幸されるに及び、以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、さらに將軍家や有力大名の崇敬を受けてまいりました。文道太祖・風月本主と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されております。そして菅公薨去延喜三年（九〇三）より百年をかけて北野の天神信仰が誕生致しました。

菅公は、千有余年の長い歴史の中で、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民・一般に至るまで「天神さま」と呼ばれ親しまれてきました。菅公が生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生きています。

現在の御社殿は慶長十二年（一六〇七）豊臣秀吉公の遺命を受けた豊臣秀頼公の造営で、八棟造という豪壮な建築様式を誇り国宝に指定されています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神・天神信仰として篤く信仰されています。



【シンボルマーク】

平安京の乾（北西）に位置する北野の地・天門をイメージし、星欠けの三光門（三辰信仰）から星梅鉢を北極星と捉えた星の軌道と、神社の象徴である一の鳥居を描き、北野天満宮の信仰的特徴を捉えたマーク。

（平安京については裏面参考）

表紙写真 一国宝御本殿前に咲く御神木の飛梅「紅和魂梅」^{べにわこんばい} —

例年、2月上旬から3月下旬にかけて境内およそ1500本の梅が咲き、境内は馥郁たる香りで包まれる。御神前に植わる「紅和魂梅」は、「飛梅伝説」伝承の御神木として、古くより信仰される梅である。



新年の御祝辞

謹賀新年

新春を寿ぎ、謹んで聖寿の御安泰、皇室の弥栄と国家の隆昌を心よりご祈念申し上げます。さて、昨年十一月三日、天満宮講社長裏千家千玄室大宗匠のもと、講社大祭が斎行され、完成した紅梅殿別離の庭にて念願の管公顕彰「曲水の宴」を開係者のご尽力により、初めて催すことが出来ました。和漢朗詠・白拍子舞等を盛り込んだ北野独自の曲水の宴であり、平安の昔を偲ばせる装束を纏った歌人等によって優雅に行われ、風雅な一時が参会者を樂しました。また十二月一日には、千利休居士ゆかり北野大茶湯を今に伝える献茶祭が、表千家堀内宗完宗匠御当番により斎行されました。さらに、三日・四日の両日、日本の伝統行事と音楽を融合させた「KYOTONIPPONFESTIVAL」が、文化・食・音楽の三テーマで境内一円・上七軒歌舞練場で盛況裡に催されました。「文道大祖 風月本主」と仰がれます御祭神菅原道真公を奉斎する北野天満宮、また茶文化発祥の地北野松原等で今後さらなる文化行事を展開し、日本文化の世界への発信を続けて参ります。

昨年は、永年の懸案でした当宮の歴史ある神事、古儀・旧儀の復興をめざし、多くの文化行事を再興することが出来ました。八月には「北野七夕祭」が「京の七夕」の北野紙屋川会場として正式に参画し、北野御手洗神事として紅梅殿西広場に完成した御手洗川の足つけ燈明神事、初めて公開された国宝御本殿石の間通り抜け神事等が厳肅に催行され、多くの参拝者に感動を与えました。再興された当宮の歴史ある神事は、今後京都の新たな夏の風物詩としての定着が期待されています。

本年も御祭神の御神意をお慰めする平成三十九年千二百二十五年半萬燈祭に向け、心新たに、諸計画を鋭意進めて参る次第です。九月には建築中の仮称『北野文道会館』が竣工の予定であり、天神信仰発祥の地に完成する『北野文道会館』より、天神信仰の教学的活動と多角的な発信を行い、さらに芸能・文化など様々な文化発信基地として活用致して参る所存です。末筆ながら、今後とも皆様方のご理解ご協力をお願い申し上げますと共に、年頭に当たり氏子・崇敬者の皆様のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げます。



管公を顕彰する楼門「文道大祖 風月本主」の額と千支（酉）の大絵馬



平成二十九年丁酉元旦

北野天満宮

宮司 橘 重十九

職 員	巫 女	出 仕	財務部長 権禰宜	名譽宮司 宮司 権宮司 禰宜	橘 重十九 加藤 迪夫 梶 道嗣 松吉 真幸 神原 孝至 内藤 洋 嶋田 貴績 加藤 晃靖 中野 忠雄 小竹 史浩 玉井 清文 松大路和弘 黒木 崇史 東川 楠彦 白江 秀宜 田中 副央 湯浅 和雅 上 將司 川村 亮滋 河合善多郎 篠原亮太郎 山本 茜 田淵 咲弥 伊藤 友香 近藤亜利奈 一色 紗里 木村 綾 益田 真実 上田 彩華 本郷 晃司 川崎 純平 澤井 美里 足立 義人
-----	-----	-----	-------------	-------------------------	--



『国家の品格』が二百八十万部の超ベストセラーになった

数学者・評論家 藤原正彦氏を招き、宮司特別対談

数学者・評論家 藤原正彦氏

数学者・評論家 藤原正彦

特別対談

北野天満宮 宮司 橘重十九



藤原正彦（ふじわら まさひこ）
昭和十八年（一九四三）生まれ、コロラド大学助教授、
お茶の水女子大学理学部教授を経て現在同大学名誉教
授。作家新田次郎・藤原ていの二男。『若き数学者の
アメリカ』『遙かなるケンブリッジ』など著書多数。

宮司 先生の『国家の品格』に感銘を受け、読み重ねることに納得することばかりです。
藤原 ありがとうございます。

宮司 よく京都にお見えになられ、当宮にも何度かお参り頂いているようで……。

藤原 北野天満宮は学問の神さまですから梅の時も紅葉の時もよく来ています。由緒を見ていたら村上天
皇とご縁があることを知り、最近益々親近感がわいてきました。というのはいちの女房（美子さん）心理
学者・エッセイスト）の家系が村上天皇の第六皇子の直系に当たりますので……。

宮司 そうなんですか。平安以来、日本では『源氏物語』『徒然草』など多くの文学作品が生み出され、
文化は世界で突出していると書かれており、誇らしい気がします。

藤原 あの本の中で、私は西暦五百年から千五百年までに日本一國で生まれた文学作品は、その十世紀間
に全ヨーロッパで生れた文学作品を質・量ともに圧倒している。西欧ではよほどの文学通でないと、そ
の間の文学作品を三つ挙げることはできない、と書きました。つい最近、イギリスのケンブリッジにいた
ころの同僚の家族が我が家に遊びに来ましたが、奥さんが『国家の品格』の英訳を読んでいて「私も『カ
ンタベリー物語』ぐらいしか挙げられない」と苦笑していました。要するに英文学、独文学などと言っても
京都一カ所の文学だけで吹き飛ばします。日本は万葉の頃から庶民は字は書けなくても口で歌を詠んでそ
れを書いてくれる人がいた。そして、平安では菅原道真公で花開いた。恐ろしい国だと思いますよ。

— 神道は日本人の高い道徳性の根源 —

宮司 そうした文化面の素晴らしさが日本に対する敬意になるんですね。

藤原 そうです。たとえ日本が世界一の軍事力や経済力を百年間続けたって、世界の人は羨望はしても尊
敬はしません。しかし、こうした文化を産み出してきた日本には敬意を払います。とくに道徳は世界でも
圧倒的に高いのですから。

宮司 その根源にあるものは何でしょうか？

藤原 やはり神道とか武士道精神から発生したと思います。とくに道徳などは、幕末・明治維新に日本に
やって来た外国人はみんな驚きます。欧米では、それを教えるのに苦労しているが、日本人はごく普通に
それを守っている。「日本人は道徳を身につけて生まれたのでは……」などと書いている人もいます。やは
り神道や武士道精神が染みついており、「それは卑怯なことだ」「かわいそうな人を助けねばいけない」と、



親がたえず子どもに教え込んできた結果です。武士道精神は元々禅とか神道を心得ています。それが江戸時代には武士だけでなく町民にも農民にも広がっていったんです。

宮司 世間でいわれるような武士道とは少し違いますね。

藤原 違います。イギリスの紳士道精神と同じようなものです。惻隱です。道德などは、日本は欧米よりずっと先を行っているのに日本人がそれに気づかず、すぐに外国のマネに走り、失敗をする。寺子屋などは世界一の初等教育機関ですよ。神主さんや僧侶、腕に自信のあるお父さんやお母さんたちが、手習いを教え、漢字や国語を教え、礼節をたたき込んだ。江戸時代の日本の識字率なんかは世界のトップですよ。そうした叩き込む教育が素晴らしい文化を産み出したのに、何周遅れで目の前にいる海外のマネをしてはダメです。

宮司 日本人としての誇りを持つことが大切でしょうね。

藤原 もちろんです。先般、伊勢でG7がありましたね。会議そのものは大したことなかったようですが、伊勢神宮へお参りしたことは大快挙です。日本の精神の中核ということで欧米の人たちはベルサイユ宮殿のような豪華な建物を考えていたのですが、古い建物に巨大な木立、神の靈気が漂う雰囲気感激して帰ったようです。

宮司 私ども神職としても大変感動いたしました。日本人の感性も宿っていますから。

藤原 自然にひびきまう、そういった感性ですね。向こうの方は、まったく違った文化ですから、そうしたものの一端に触れ、相当感激したと思います。

宮司 日本は古くから神仏がともに敬われてきた、という経緯がありますが……。

藤原 普通なら殺し合いになりかねないのに神仏習合というのはうれしい話です。お寺と神社は仲がいい。数年前、文科省が日本人の宗教調査で、信仰する宗教を問いただしたら神道と仏教を合わせた人数は二億人になったとか。

——日本人は縄文の昔から日本的霊性、美的感性を持っていた——

宮司 私は京都市の岩倉にある小さな八幡社の宮司も兼務しています。信仰の篤い地域の方が「息子がヨーロッパの教会で結婚式を挙げるが、どうすればいいか？」と、申し訳なさそうにおっしゃるので、私は「行かれたらいい。帰ってこられたら、八幡社で奉告祭をしてください」と言いましたら、大変うれしそうでしたよ。

藤原 素晴らしいですよ。神道は寛大な宗教です。そんな神社が最近、維持が難しくなっている境内を切り売りしたりするケースが見られ、何とかならないものかと残念に思っています。

宮司 仏教が伝来するまで日本人に信仰はなかったという人がおり、私は反論し、よく論争をしました。

藤原 信仰がなかったというのはおかしい。日本人は、新しいものを取り入れる天才です。しかし、必ず古いものを折衷します。ですから、昔は何もなかったというのは大嘘です。例えば、禅の話ですが、鈴木大拙さんの本を読めば、中国ではエリートたちがやっていただけで一般庶民は誰一人知らない。ところが、日本には縄文の昔から日本式霊性ともいえる土着のものがあって、そこから神道が生まれ、そこにあるものと合致したから禅が日本ですぐに広がった、といったおられますよ。



満開の梅に包まれる三光門にて

宮司 日本人は、縄文の昔から日本特有の霊性、美的感性を持っていたのですね。

藤原 そうです。

宮司 先生が申される惻隠の情といったのもですね。

藤原 そうです。神道も何千年昔の日本的霊性に根差しているのです。

武士道精神という弱者への哀れみ、惻隠の情なんか、縄文時代から持っていたのです。弱い者に涙を流す、卑怯なことはいけない、親孝行が大事だ……。三千年前からちゃんと知っていたんですよ。それを例えば仏教などが入ってきて理論化したのだと思います。

宮司 今、世界は混とんとしています。先生のお話しを承っていると、いまこそ、日本の出番だ、ということですね。

藤原 そうです。論理だけでは通じなくなっていますからね。武士道精神、その根底にある神道とか土着の精神性のようなものを世界に教えていかねばならない、と思います。しかし、「もののあわれ」など、わかつてもらうには相当時間がかかります。美的感受性が全然異なりますから。でも、日本はそんな国柄を絶対に捨ててはいけません。国柄を保っていくことが、日本国家として一番重要なことです。

宮司 『国家の品格』の中にもあったと思いますが、英語は国際語として重要かもしれないが、もっと大事なのは国語だとおっしゃられていますね。

藤原 そうです。国語、母国語ほど大切なものではありません。母の語る言葉、これは日本だけでなく世界中すべての国で最も重要なことです。国語が出来れば本が読めます。そうすればいろんな文学を読んで感動し、涙を流します。日本語ができれば、惻隠とか、勇氣、正義、忍耐、誠実、卑怯を憎む精神が、全部胸の内に吹き込まれます。従って国語を徹底的にする初等教育で子どもを育てるべきです。小学校で英語だ、パソコンだ、金銭教育だというのは間違っています。英語が多少できても国際人の仲間入りはできません。それよりも親孝行とか故郷を懐かしむ心とか、そんなことをきちんと身につけることが国際人として一番大事なことです。

宮司 そうしたものを感性として下地に持っている日本は特殊なのではないですか？

藤原 特殊なのかもしれません。大地震・大津波・大噴火・大台風・大洪水……と、よくもこんな国を神さまは造った、と思われるかもしれませんが、神さまは、圧倒的に美しい自然を下さったのです。素晴らしい繊細な四季の変化を下さった。四季の変化などは、よその国に行ったら味わえません。植生もすごく豊かです。こんな国はありません。日本人は、そんな美しい自然とかを天災のひどさとを結びつけて考えます。

宮司 私たちが唱える祝詞に、カシコミという言葉があります。最後は必ず「カシコミ、カシコミ申す」です。これは、畏敬と感謝と畏怖を表す言葉です。自然にひざまずく姿ですね。

藤原 それが日本人なのです。例えば、「もののあわれ」だって、元々はお釈迦さまの無常観なのです。すべての物は、永遠には存在しない、なんて誰もがわかる論理ですが、それが日本に渡ってきて、哲学理論ではなく、先ほど言ったように天変地異といったようなもの、もつとウエットな物悲しさといったものが混じって「もののあわれ」が芽生えた。サクラを見ても、そこにはかない人生、はかない青春を投影す



見頃を迎える梅苑より、楼門「文道大祖 風月本主」額を望む

るとか、虫の音を聞いても夏が去り、厳しい冬を迎える狭間の秋の寂しさを感じたり、無常観の変形として「もののあわれ」となった。これが日本人だと思います。先ほど、自然にひざまづくとおっしゃいましたが、欧米人にとって、自然は人類の幸せのために征服すべき対象です。しかし、自然をそんな風に考えている日本人なんていません。人間なんて自然よりはるかに小さなものだと考え、ただひざまづくだけです。こういうことは世界に教えていかねば……。いや、教えなくてもそのうちわかるはずです。

――全ての美的感受性を養う日本の自然の美しさ――

宮司 そのような日本人のよさを日本人自身が気づいていないのでは？

藤原 そこが一番の問題です。十九世紀のイギリスにスマイルズという思想家がいたのですが、こういう風に言っています。「国家とか国民は、自らが輝かしい民族に属するという感情によって初めて力強く支えられる」と。ですから、国際人、グローバル化などと言うのなら、まず縄文以来日本人が持ってきたものを取り戻し、そういうものを産み出してきた誇り、これは一見非常にローカルにみえますが、実は普遍的なものであるという誇りを持って世界に羽ばたいていく。これが実は国際人にとってもっとも重要なことだ、ということ日本人がわからないといけません。

宮司 先生のお話しを承っていると感動の連続です。ところで、菅公は二百巻にのぼる『類聚国史』という今でいうカードシステムによる歴史書を著されました。それは平安時代の学者や政治家の必需品ともなっていたようです。

藤原 二百巻ともなれば一人ではできませんから多くの助手を使われたと思いますが、いずれにして道真公という人はすごいですね。

宮司 御土居のもみじをもつと植樹しようと計画しているところです。

藤原 それはいいことです。こういうもみじは世界に例を見ないものです。日本の自然の美しさは、すべて美的感受性を養うことに繋がります。私がお百姓さんを大切にしなければならぬ、と主張するのもそのためです。お百姓さんは、米を作るだけでなく自然の番人なんです。だからどんなことがあっても守らなければならない、と思っています。

宮司 北野天満宮には修学旅行で訪れた年間三十万人の子どもの多くの多くが、本殿に昇殿参拝し、ご祈祷されています。二十五年ほど前まではなかった現象ですが、年々増えています。やはり心の先祖返りのようなものがあるのではないかと思います。

藤原 いい傾向ですね。私なんかも神社で手を合わせると、その後気分がいいですよ。これって不思議ですね。私の子どもたちもきつとそう感じていると思います。

宮司 お話しをお聞きし「文道大祖 風月本主」と仰がれ、今なお崇められている菅原道真公の御神霊を祀る神社の宮司として、天神信仰が更に昂揚するよう一層頑張らなければならない、との思いを強くしました。先生、本日は多方面にわたりご教示を賜り、ありがとうございました。



日本の中心地・京都その文化の礎となった 天神信仰発祥の北野天満宮



平安京は日本文化の礎

わが日本人の祖先は、太古の昔、まさしく縄文の昔から自然界全てのものに靈性を認め、靈の大きく働くところに神々を感じ、畏敬と感謝、そして畏怖の念をもって自然と共生してきた。

飛鳥・大和王朝時代に、仏教をはじめ様々な外来文化が伝来。『日本書紀』の用明天皇の条に「天皇弘法信けたまい、神道を尊びたもう」と記されているように、神仏習合ともいえる文化が始まったのである。歴代天皇が律令国家建設につとめられる中、都は転々とした。延暦十三年（七九四）、ついに桓武天皇は山背の国に四海平安の祈りを込めて平安京を建設され、千二百年におよぶ文化の都・京都が誕生し、日本文化の礎となったのである。



天神になられた道真公

平安京遷都より五十年後に出現された菅原道真公（菅公）は、政治家でありながら類いまれなる学者・詩人・教育者といわれ、縄文からの美的感受性を大切にしながらも「和魂漢才」の精神で外来文化との和合の道を示された。

後に「文道大祖 風月本主」と崇められ、村上天皇の天暦元年（九四七）、平安京の最も重要な乾（北西）の天門に菅公を祀る北野天満宮が創建され、そして一條天皇より北野天満天神の御神号を賜り、全国にその御分霊が祀られるとともに、信仰は一般庶民に広がったのである。

全国約八万社の神社のうち約七万社は神話の神々が祀られているが、歴史上の人物が神あがりされ、全国に一万社以上も祀られているのは天神さまでだけである。

菅公の「和魂漢才」の精神は、明治に入り「和魂洋才」の言葉に置き換えられ、日本の近代化に寄与し、今なおその意味のするところの重要性が指摘されている。日本が世界に類のない高度な文化を育んだ礎に、京都から全国に伝播した北野の天神信仰が大きく関与しているのである。



平安京の乾（北西）の天門に位置する北野天満宮



楼門に掲げる「文道大祖 風月本主」額

「文道大祖 風月本主」と景仰される菅公の御神徳を現代に

北野大茶湯跡地を中心に催される北野の文化行事



修繕された紅梅殿にて、幻の芸「白拍子舞」の奉納（上杉 遙氏・松原 史氏・石山裕菜氏）

講社大祭、厳かに斎行

天神信仰の更なる昂揚を祈願 再興された菅公ゆかりの「曲水の宴」を鑑賞



裏千家大宗匠千玄室様
御名代 村上利行氏

北野天満宮講社（会長 裏千家千玄室大宗匠）の平成二十八年度講社大祭が文化の日の十一月三日午後一時半から本殿で厳かに斎行された。例年、講社大祭は夏に斎行されているが、昨年の「紅梅殿別離の庭」完成に伴い、柿落しの催しとして菅公ゆかりの「曲水の宴」が千百余年ぶりに再興することになり、これを鑑賞して頂くため、この

日に繰り延べされ執り行われた。

本殿並びに中庭の特設席に約五百人が参列する中、全国約三千人の会員名簿が供えられた本殿では、宮司が祝詞を奏上した後、宮司に続いて千会長名代の裏千家村上利行執事室長が玉串拝礼し、天神信仰の更なる昂揚と会員の無病息災・家内安全・諸願成就を祈願した。

この後、境内整備などに尽力された堀内商店、村尾幸子氏、奥谷組、樋口造園に感謝状が贈呈された。大祭終了後、講社役員や会員は「紅梅殿別離の庭」へ移動、再興された雅な「曲水の宴」を鑑賞した。



斎行された「曲水の宴」

十一月三日、天満宮講社長 裏千家千玄室大宗匠のもと

菅公ゆかりの「曲水の宴」、千百余年ぶりに再興

「紅梅殿別離の庭」で平安の雅を今に

初のと漢朗詠、白拍子舞も加わり、千人の参拝者を魅了



満員御礼の曲水の宴



会長挨拶 代読 裏千家 村上利行氏 ご参列 前列左より 唐橋在倫氏 冷泉為弘氏 冷泉為人氏
後列左より 宮階有二氏 田辺親男氏 渡邊隆夫氏 塩尻良市氏



朗詠（藤村正則氏・御手洗靖大氏）



山科言親氏・奈良茉莉子氏



高崎秀夫氏・竹中美加氏



笹岡隆甫氏・川尾朋子氏



有松遼一氏・有松有里氏



濱崎加奈子氏



童子(泉 珠以氏・青山愛実氏・田村みその氏・竹中皐大氏・龜山 花氏)

御祭神菅原道真公ゆかりの「曲水の宴」が、文化の日（十一月三日、本殿西広場の「紅梅殿別離の庭」で千百余年ぶりに再興された。和魂漢才を尊ばれた菅公の精神に学び、和漢朗詠という初の試みに加え、白拍子の舞も入るといふ天満宮仕様の「曲水の宴」となり、一・二部合わせて千人の参拝者を平安の雅に誘った。

「曲水の宴」は、庭に流れる小川に酒を入れた杯を流し、飲むとともに題に即した詩を賦するという宴で、中国から日本に伝えられ、奈良・平安時代盛んに行なわれた。宇多天皇に重用された菅公は、記録で確認できるだけでも四回、宇多天皇主宰の「曲水の宴」に招かれており、その際に創られた詩文も幾つか残されている。

こうした経緯から当宮では、かねてから「曲水の宴」の再興を願っていたが、国宝「北野天神縁起絵巻」（承久本）に描かれた「紅梅殿別離の庭」が完成したことを祝い、裏千家大宗匠千玄室天満宮講社会長を始めとする有識者による「菅公曲水の宴保存会」が組織され、様々研鑽を重ね、この日、千百余年ぶりの再興が実現した。

天満宮講社会員を対象とする一部の開宴に先立ち裏千家村上利行執事室長が「紅梅殿別離の庭完成の柿落しとして曲水の宴が悠久の歴史を経て本日復活することは、大変意義深い。今後とも天神信仰の発揚の一助となる事業を行いたく思うので、一層のご支援、ご協力を賜りたい」との千会長の挨拶を代読された。

この後、歌人で専修大学准教授濱崎加奈子氏の司会・解説により、紅梅殿で漢詩朗詠と白拍子舞の披露が行われた。漢詩の朗詠は、菅公作の『花時天似醉』が雅楽の音にのせて朗々と詠じられ、また、白拍子も菅公作の和歌を詠じながら優雅な舞を披露した。

次第

- 一、入庭
- 一、朗詠・白拍子「花時天似醉」
- 一、曲水
- 一、詩歌披露
- 一、賜禄
- 一、退庭
- 一、終納の儀

詠者

題

〔漢詩〕

- 「神」 笹岡隆甫（華道末生流笹岡家元）
- 「賀」 高崎秀夫（京都銀行取締役会長）
- 「紅葉」 有松遼一（能楽師ワキ方高安流）
- 「恋」 山科言親（同志社大学三回生・元伯爵山科家）

〔和歌〕

- 川尾朋子（書家）
- 竹中美加（歌人）
- 有松有里（歌人）
- 奈良茉莉子（京都教育大学四回生）

朗詠

藤村正則 御手洗靖大（付物…京都雅楽会）

白拍子

上杉遥 松原史 石山裕菜（協力…今様白拍子研究所）

「菅公顕彰曲水の宴保存会」

- 千 玄室 氏（裏千家今日庵大宗匠）
- 冷泉 為人 氏（上冷泉家）
- 冷泉 貴実子 氏
- 冷泉 為弘 氏（下冷泉家）
- 唐橋 在倫 氏（菅家）
- 橘 重十九 氏（北野天満宮宮司）

「曲水の宴実行委員会」

- 植山 俊宏 氏（京都教育大学教授）
- 植木 朝子 氏（同志社大学教授）
- 浅井 航洋 氏（京都女子大学非常勤講師）
- 隴谷 寿 氏（同志社女子大学名誉教授）
- 西山 剛 氏（京都文化博物館学芸員）
- 太田 達 氏（有斐斎弘道館代表理事）
- 濱崎加奈子 氏（専修大学准教授）
- 神原 孝至 氏（北野天満宮禰宜）

「曲水の宴」の詠者は、平安時代の装束に身を包んだ男女各四人で、小川に沿って着座。上流から流れてきた杯を次々口につけ、男性が漢詩を女性が和歌を筆でしたためた。この日の兼題は「神」「賀」「紅葉」「恋」で、出来た作品は、同志社大学教授植木朝子氏・京都教育大学教授谷口匡氏によって披露され、解説が加えられた。引き続き二部の一般参拝者の部が盛況に行われた。

朗詠「花時天似醉」

はなのとき はてんもよへるがごとし

我君一日之沢。

万機之余。

曲水雖遥。遺塵雖絶。

書巴字而知地勢。

思魏文以翫風流。

（菅原道真公菅家文章「和漢朗詠集」）

【詩の意味】

「曲水の宴は遙か遠くになり、その名残も絶えてしまっている。巴という字のように曲がりくねった川で、風流韻事を好んだ魏の文帝を思っ雅な遊びを楽しむ」と、曲水の宴を再興した宇多天皇を称える詩の一節。菅公の高い教養がうかがえます。



昼も夜も、歴史舞台はもみじ鮮やか

錦秋の史跡御土居「もみじ苑」に
参拝者の人波、会期一週間延長で対応
展望舞台完成、新装の紅梅殿・別離の庭も彩添える

菅公御歌

このたびは
幣もとりあへず手向山
紅葉の錦
神のまにまに



錦秋の紙屋川

史跡御土居「もみじ苑」が昨年十月二十五日から開苑した。本殿や境内が見渡せる展望特設舞台の工事も完了、加えて新装した紅梅殿「別離の庭」も彩を添えて、天神信仰の聖地“にふさわしいもみじの名所として声望を集め、ひときわにぎやかなシーズンとなった。十二月に入ってももみじの色づきは”見ごろ“が続き、多くの問い合わせがあったため、公開を急ぎ一週間延ばして対応した。

朝晩の冷え込みが始まるとともにもみじの色づきは鮮やかさを増した。それに呼応するようにもみじ狩りの参拝者が列を連れ、ライトアップが始まった十一月十二日からは昼も夜も多くの参拝者で賑わい、とくに新嘗祭が斎行された二十三日は勤労感謝の日の祝日とあつて、入苑の順番を待つ行列が楼門の外まで続いた。

「もみじ苑」内では、一昨年まで仮設だった展望特設舞台の工事が完了、常設舞台となることで広さを増し、ここで立ち止まって本殿や境内を眺める人も多く「雰囲気」が神々しく身震いするほど感動しました」「京都の市街地で、豊臣秀吉公が築いた御土居のもみじがこんなに美しいとは…」と絶賛する声が聞かれた。



錦秋のもみじ苑と御土居舞台から境内を一望する多くの参拝者



大銀杏と地主社



幻想的な姿をあらわす国宝御本殿ライトアップ

また、一新した紅梅殿や別離の庭も参拝者の人気を集め、記念写真を撮影する絶好の“舞台”となり、篝火を焚いて行われた祭典や奉納行事にもたくさんの方の参拝者が集まり、幽玄な雰囲気浸っていた。

例年なら十二月になると、入苑者はまばらとなり閑苑となるが、昨年は十二月三、四日に「KYOTONIPPON FESTIVAL」が開催されたこともあって入苑者数は衰えず、シーズン真ただ中のような状況が続いた。

史跡御土居「もみじ苑」は、一昨年、JR東海の「そうだ京都、行こう。」のキャンペーン地に選ばれたことで、一気に全国からの参拝者が増え、かつてない賑わいとなった。昨年は、そうした外からの後押しがないことから、平年通りの「もみじ苑」になると見込んでいたが、予想は大きくはずれ、昨年に匹敵する賑わいとなった。

賑わいの根源は天満宮講社の御土居整備事業の成果

史跡御土居「もみじ苑」が、ここまで賑わいを見せるようになったのは、整備事業に邁進されてきた北野天満宮講社（会長裏千家千玄室大宗匠）のたゆまぬ尽力によるものといえる。

同講社は、当宮の千百年大萬燈祭を支えた崇敬者組織を発展的に継承した会であり、会員数は全国に約三千人。発足以来、一貫して御土居の整備と植林事業に力を入れられ、茶室「梅交軒」の改修や舞台の延伸工事などによって、今では京都の町中では有数のもみじ苑となり、全国から多くの参拝者が訪れるようになった。今回の賑わいに繋がった。 ※「もみじ苑」開苑中の主な祭典・奉納行事は26面と27面に掲載しています。



にぎわう老松茶店



美しく照らし出された紅葉

「天正の北野大茶湯」を今に、

御茶壺奉獻奉告祭 献茶祭 齋行

堀内家長生庵庵主堀内宗完宗匠御奉仕



菅公と空前絶後の北野大茶湯

太閤豊臣秀吉公が、天正十五年（一五八七）、一千有余人の参会者を集めて、「北野大茶湯」を催した。若党から百姓に至るまで、所持している道具を持って来れば参加できるといふ触書きを出し、秀吉公、利休・今井宗久・津田宗及居士等も、名立たる名器で茶を供したこの大茶会は、秀吉公ならではの空前絶後のものであった。北野大茶湯が北野天満宮で開催されたのは、秀吉公・利休居士をはじめとする茶人が、菅原道真公を「茶祖」とも景仰していたという事に他ならない。

菅公が著述編集された『類聚国史』には、嵯峨天皇が弘仁六年（八一五）大津へ行幸された時、崇福寺と梵釈寺に参詣され、その時、永忠という高僧が唐風のお茶を献じると、いたくお喜びになり御衣を賜ったことが記されている。

実は、お茶は遣唐使によって、奈良時代に渡来していたのである。また、『類聚国史』の中に、菅公が茶の故実を調査・研究され、神前に献茶する祭儀を始められ、さらに喫茶を習慣とする意義を広められたことが記述されている。大宰府の配所で読まれた詩編の中に、「煩懣胸腸に結る起きて飲む茶一盞」とあり、菅公はここで茶としてお茶を飲まれていたのである。

このように、お茶を学問として研究した最初の方が、菅原道真公であり、お茶の効能を調査し、儀式化することで慣習化し広められたのである。すなわち、茶文化の礎を築かれたのが、天神さま・菅原道真公なのである。



北野大茶湯図 浮田一蕙筆

大茶湯三百五十年記念 昭和大茶湯（昭和11年）



御茶壺行列



拝殿前に奉納された御茶壺



上七軒による豊国神社前の奉納行列



北野大茶湯 高札



口切式を行う献茶祭保存会役員（左より）山本源兵衛氏・畑正高氏・乾八郎兵衛氏・鈴鹿且久氏・大倉治彦氏・長谷幹雄氏

太閤ゆかりの「北野大茶湯」とは

「北野大茶湯」は、豊太閤が天正十五年（一五八七）十月一日、千利休・今井宗久・津田宗及居士らとともに亭主を務め、御本殿での献茶の後、境内北野松原で催した歴史上名高い空前絶後の大茶会で、「北野大茶湯」と呼ばれている。豊太閤所蔵の名器の数々が展覧され、市中・畿内各所に高札が立てられて、名立たる武将だけでなく貴賤貧富を問わず、茶好きの者は唐人までの参加を呼びかけて開かれ、北野の森には八百もの仮設の茶席が並んだといわれる。大茶会の会場に当宮境内が選ばれたことについて、竹内秀雄氏は『天満宮』（吉川弘文館）の中で「彼（秀吉公）の菅公信仰と恰好の場所だった」と指摘されている。茶会に先立って神前で祈願も行われている。

楼門前中ノ森には現在も当時使用されたというゆかりの「太閤井戸」が残っており、一の鳥居西側の茶室「松向軒」内には細川三斎が使った井戸「三斎井戸」など天正の名残を示す遺跡がある。明治十九年には、大茶湯三百回記念献茶式が行なわれ、また昭和十一年には五日間に及ぶ三百五十年記念の「昭和の大茶湯」が開催されるなど当宮の献茶祭は、そうした故事・伝統を引き継いで斎行されており、文字通り「天正の縁」を今に伝える献茶祭といえる。

古式ゆかしく御茶壺奉献奉告祭・口切式

献茶祭に先立ち十一月二十六日午前十一時から御本殿で、献茶祭に使用する抹茶の原料・碾茶を奉献する御茶壺奉献奉告祭が斎行された。

碾茶は、由縁により山城六郷（木幡・宇治・菟道・

伏見桃山・小倉・八幡・京都・山城）の茶生産者と茶業関係者によって奉献、茶壺に詰められ、産地ごとに八つの唐櫃に納め、紺の着物・姉さんかぶりに茜たすきの茶摘み娘を先頭にしたお茶壺行列によって一ノ鳥居から本殿まで運ばれた。なおこのお茶壺道中は古くは寺町二条辺より出発し行列は当宮まで盛大に厳粛に催行されていたとされる。この日は小春日和の土曜日とあって、多くの参拝者が古くから伝わる茶壺の行列を見守った。

由緒ある九つの茶壺が神前に供えられ、御茶壺奉献奉告祭が斎行された。今回ご奉仕される当番家元、堀内家の堀内紀彦若宗匠を始め参列の茶師・茶商・献茶祭保存会役員らが玉串拝礼し、献茶祭の無事斎行を祈った。

この後、口切式に移り、宰領渡辺孝史氏検知のもと、献茶祭保存会役員七人が勢揃いして古式通り茶壺の口を切って、色鮮やかな碾茶を茶舟の上に盛り上げ、丁寧な検知が行われた。碾茶は、抹茶にして十二月一日の献茶祭を迎えることになった。



宰領渡辺孝史氏による碾茶検知



御茶壺道中



御神前にてご奉仕される堀内家長生庵 庵主 堀内宗完宗匠と堀内紀彦若宗匠

献茶祭斎行

堀内家長生庵庵主堀内宗完宗匠ご奉仕

十二月一日午前十時より献茶祭が関係者多数参列のもと御本殿にて斎行された。神前でのご奉仕は、四家元・二宗匠（藪内家・表千家・裏千家・武者小路千家・堀内家・久田家）が六年ごと輪番で務められるのが習わしで、今年は堀内家のご奉仕となった。

長生庵庵主堀内宗完宗匠がご奉仕され、御祭神と豊太閤を祀る末社豊国神社の神前に奉る濃茶・薄茶を謹点。宮司が祝詞を奏上、宗完宗匠や献茶祭保存会の代表らが玉串奉奠して本殿での祭典を終えた。この後、宗完宗匠らは豊太閤を祀る豊国神社へ移動され、祭典が斎行された。

この日、社務所広間に拝服席（長生庵）が、また本席が明月舎（不寂会）に設けられたほか、社務所奥の間・中の間（行分会）、楼門下中ノ森（京都長生会）、西方寺（名古屋長生会）、松向軒（松向軒保存会）、上七軒歌舞練場（上七軒お茶屋組合・同芸妓組合）に各副席が置かれ、また、北門にはそば席（献茶祭保存会）が設けられ、終日多くの茶人・愛好家で賑わった。

献茶祭に協賛「菓匠会」が銘菓を展示「冬めく」を菓題に珠玉の一品がずらり



菓匠会による協賛席（絵馬所）

献茶祭に協賛し、今年も京都の老舗和菓子店で組織する「菓匠会」が、絵馬所で飾り菓子の展示会を開き、日頃の京の和菓子職人の技を披露、茶と伴に発展した京都の伝統文化が参会者の目を楽しませた。

「菓匠会」は、江戸時代の禁裏御用達の「上菓子仲間」の流れをくむ老舗和菓子店二十店で組織されており、今年の課題「冬めく」をテーマに「初氷」「風花」「薄氷に咲く」など様々な題をつけ、各店渾身の珠玉の一品を展示。来場者の目をひきつけていた。



各店渾身の一品を展示



KYOTO
NIPPON
FESTIVAL

Autumn Leaves
2016

12.03 sat. / 04 sun.



満員の観客で盛り上がる紅梅殿 LIVE



バイオリン奏者 宮本笑里

生けていく動きが
一体となった不思議なハーモニーを
見せ、いけばなと
いう日本の伝統文
化の魅力をひととき
わ引き立たせた。

三日午前十一時半から神楽殿で昼のオープニングがあり、華道家元池坊の池坊専好次期家元とバイオリニスト宮本笑里の演奏という”和洋融合“のコラボレーションが行われ、神楽殿の周囲を埋め尽くした参拝者の目と耳をくぎ付けにした。いけばなを生ける専好次期家元の後ろで宮本笑里さんがバイオリンを奏でるといって珍しい形の共演。バイオリンの音と、

いけばな バイオリン 池坊専好次期家元と宮本笑里が絶妙のコラボ

日本文化の礎となった天神信仰の発祥地から文化・音楽・食の魅力を国内外に発信しよう。こんな意気込みによる「KYOTONIPPONFESTIVAL」が、十二月三、四の両日、当宮と上七軒歌舞練場を会場に開催され、二十組以上のアーティストによるライブを始め、いけばな・書道・香の体験コーナー、さらには数々の食の店が並び、両日とも多くの参拝者で盛り上がり、史跡「御土居のみじ苑」とともに賑わいを見せた。

御祭神の菅原道真公は、学問・書・芸能などの神として崇敬され、境内は歴史的に名高い「北野大茶湯」の舞台であり、また、出雲の阿国が公演した歌舞伎発祥地など日本文化との繋がりは極めて深い。こうしたことから日本の伝統文化と音楽などを融合させ、京都の魅力を国内外に発信するのが狙いの同フェスティバルの第一回目の会場として当宮に白羽の矢が立てられた。

当宮から文化・音楽・食の魅力を国内外に発信
「KYOTONIPPONFESTIVAL」開く
著名アーティストに沸き、伝統文化に浸り、美味に舌鼓



華道家元池坊次期家元 池坊専好氏によるいけばな披露



参道に並ぶのぼり



楼門



上七軒歌舞会による日本舞踊（上七軒歌舞練場）



北野天神太鼓会による紅梅殿LIVEオープニングアクト

がり火の下、片平里菜、川畑要（CHEMISTRY）、大橋トリオといった有名アーティストが、それぞれの世界を歌いあげ、聴衆をうっとりさせた。

また、上七軒歌舞練場では、午後六時半から芸舞妓の踊りの後、「松本隆の世界〜風のコトダマ」が開演した。人気作詞家の松本隆氏が古事記などの古典をもとに創った言葉を女優の若村麻由美が朗読、シンガーのクミコが藤舎貴生の横笛などの伴奏で歌いあげた。また、この四人の絶妙のトークもあり、満員の聴衆を魅了した。

四日の紅梅殿では安藤裕子、向井秀徳、birdが登場、上七軒歌舞練場では、矢野顕子が三味線の上妻宏光をゲストに迎えて歌った。



橘宮司挨拶



門川京都市長によるご挨拶

市長歓迎挨拶、有名歌手続々登場

同日午後五時から紅梅殿で夜のオープニングセレモニーが行われた。駆け付けた門川大作京都市長が「北野天満宮と上七軒を舞台にこうした催しが開かれ、大変うれしい。京都が誇る文化によって日本中を元気にし、世界から尊敬される街になるよう頑張ります」と挨拶した。引き続き橘重十九宮司が挨拶し、「北野大茶湯が当宮境内で開かれたのは偶然ではなく、道真公が薬として使われていたお茶を神社や寺に献じ、神仏の加護を祈られていたからだ。十二月一日の献茶祭に向け、御茶壺道中や口切式、また、十一月には曲水の宴も再興した。一ヶ月間、様々な神事・行事を行ってきたが、締めくくりにこうした催しを開いて頂き感謝します」と述べた。

この後、神若会北野天神太鼓会が「三宅」と「一心」を勇壮に叩き、プロ歌手登場を導いた。そして、赤々と燃えるか



IKENOBOYSの生け花パフォーマンス（神楽殿）



紅梅殿LIVEに酔いしれる多くの観覧者



大盛況の神楽殿LIVE



池坊献華展（西廻廊）

中ノ森広場では、両日にわたり京都吉兆総料理長、徳岡邦夫氏プロデュースによる「フード&ショップ」が開店した。和洋食や酒・茶・和菓子などの店約二十店がずらり並び、参拝者が次々お目当ての食べ物や飲み物を求め、傍のテントで味わっていた。売れ行きは、どの店も上々で、「売り切れ」「の張り紙を出す店もあるなど人気を呼んだ。

両日出店した店は、京都吉兆・伊右衛門サロン京都・一保堂茶舗・ILGH IOTTON・永楽屋細辻伊兵衛商店・祇園ごずこん・京菓子司末富・京都祇園 侘家古曆堂・佐々木酒造株式会社・SUNTORY・創作中華 一之船入・Bar Le Peu x MOET & CHANDON・洋食祇園ミクニ・レストランテキメラ・サウナ&カプセルホテルルーマプラザ・TOWER RECORDS

「フード&ショップ」も賑わう

二日間にわたって池坊京都支部による「いけばな」の作品展示も行われ、参拝者が熱心に見入っていた。



松栄堂 お香ワークショップ（明月舎）

両日とも神楽殿では歌手が次々登場して歌声を聞かせたほか、社務所では池坊による「いけばな」、明月舎では松栄堂による「聞香」、さらに松向軒では立命館大学による「漢字体験」の各教室が、それぞれ一日三回から四回開催された。

「いけばな」教室では、池坊の若手教師が、池坊の特徴や立花・生花・自由花の違いを教え、実際にクリスマススの花をテーマとした自由花を生けさせた。また、「聞香」では小さな香炉を使って五種の香木を焚き、香の聞き分けを楽しむ優雅な世界へ誘った。「漢字体験」教室では、古代文字アーティストの天遊さんをゲストに迎えて古代文字と遊ぶワークショップが行われ、立命館大学書道部員らとともに漢字の世界を楽しんだ。西廻廊では

「いけばな」「聞香」「漢字体験」の各教室



京都吉兆をはじめ京都の名店が軒を連ねる食エリア



一保堂茶舗や京菓子司末富など老舗名店の数々



立命館大学 書道ワークショップ（松向軒）



池坊 生け花体験教室（社務所大広間）



川畑 要 (CHEMISTRY)



安藤裕子



向井秀徳

紅梅殿
LIVE 出演
アーティスト



片平里菜



大橋トリオ

神楽殿
LIVE 出演
アーティスト



Sky's The Limit



Shusui (周水)



b i r d



ダイアナガーネット



戸渡陽太



サンドクロック

「KYOTONIPPON FESTIVAL」は、京都市・株式会社ソニーミュージックエンタテイメント・華道家元池坊・京都吉兆・立命館大学・北野天満宮などで構成する実行委員会が主催した。



DJ みそしる と MC ごはん



Rei

上七軒
歌舞練場
LIVE 出演
アーティスト



矢野顕子

上妻宏光



松本 隆 (作詞家) 若村麻由美 (役者) クミコ (シンガー) 藤倉貴生 (横笛奏者)



初詣



歳旦祭

一月一日

新年最初の神事。午前七時から宮司以下神職によって本殿で斎行され、年頭に当たり世界の平和・国家隆盛・皇室並びに氏子崇敬者の弥栄を祈願する祭典。受験祈禱や年始に際しての家内安全・厄除などの祈願が非常に多く、学業のお守をはじめ、お札・絵馬などを受ける受験生やその家族で社頭は大変混雑し、特に新年招福の天神矢や千支の一刀彫等の正月の縁起物は、参拝者に悦ばれている。



筆始祭並びに「天満書」奉納

一月二日

午前九時から本殿で御遺愛の硯などを整え、書道の神でもあった菅公の御神徳を偲び、この日から神前書き初め「天満書」を始めることを奉告する。「天満書」は、絵馬所で四日まで行われ、子どもたちが書道の上達を願って力強く書き初めをし、作品を奉納する。これに家庭で書き、奉納された作品を加え、例年約四千点が、十九日午後一時から二十八日午後三時まで西廻廊で展示され、展示初日に書家の先生らによって審査が行われる。

献華展

華道家元池坊

京都支部

一月二日まで

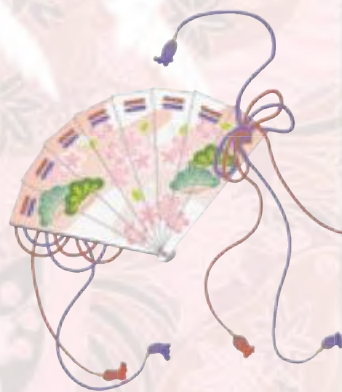
華道家元池坊京都支部による新春を彩るいけばなの奉納。元旦から神楽殿で開催され、立花・生花・自由花の形で生けられた正月らしい生け花が初詣参拝者の目を楽しませる。



一月三日

新春奉納狂言

新春奉納狂言が午後一時から神楽殿で、猿樂会と茂山良暢師によって行われる。



一月五日

そろばんはじめ初め



北野天満宮そろばんはじめ初め奉賛会に集える小中学生約四百人が御本殿参拝後、午前十時から絵馬所にて、そろばんの上達を願ってはじき初めを奉納する。長さ五・五メートル、四百桁もあるジャンボそろばんが毎年話題となる。



一月二十五日

初天神



一年で最初の御縁日であり、表参道を始め境内周辺は、多くの露店が並び、ひとときわにぎわう。
特に一月二十五日は初天神と呼ばれ、新春一番の天神さんの日として、京阪神はもとより全国の人々に親しまれている。毎年多数の参拝者が訪れるとともに、すでに受験シーズンに入っており、本殿前や牛社前は、若者の行列ができる。表参道を始め境内周辺は、多くの露店が並びひときわにぎわう。

一月五日まで

楼門に西陣系人形

西陣織工業組合協賛による系人形の展覧。西陣のつくりもの人形「系人形」が楼門内部左右に展示される。西陣織工業組合の依頼により毛利ゆき子西陣和装学院学長の監修指導のもと同学院と西陣連合青年会が毎年テーマを変えて制作する。



二月二十五日

梅花祭

九百有余年の歴史ある祭典



菅原道真公の祥月命日に当たる二月二十五日午前十時から本殿で梅花祭が厳かに斎行され、御祭神の御遺徳をしのぶ。神前には七保会の会員が調製した「梅花の御供」「紙立」という二種の特殊神饌が奉饌される。また、貞明皇后御参拝の古例により宮内庁京都事務所長が皇后陛下の御代拝として参向される。

境内では美しく咲いた梅花の下、上七軒歌舞会の女将・芸舞妓らの奉仕により「梅花祭野点大茶湯」も行われる。公開中の梅苑を含め境内は参拝者で大賑わいとなる。



二月三日

節分祭と追儼式



午前十時から本殿で節分祭を斎行し、一年間の災厄を祓った後、午後一時から神楽殿で茂山千五郎社中による伝統の「北野追儼狂言」が奉納される。上七軒歌舞会の芸舞妓による日本舞踊の奉納もあり、最後に出演の狂言師と芸舞妓が神楽殿の上から威勢よく豆をまく。

当宮は京都の「乾（北西）の隅」の守り神として創建されて以来、災難除け・厄除けの社としても篤い信仰があり、節分には「四方詣り」と称して当宮など四社寺を参拝して無病息災を祈る習慣が根付いている。

北野神輿の比類なき歴史(二)

——天皇と神輿——

天皇の輿を昇^かく人々によって昇^かれた北野の神輿

京都文化博物館学芸員

西山 剛



西山 剛 略歴

1980年大阪府柏原市生まれ。総合研究大学院大学文化科学研究科博士後期過程満期退学。専門は、日本都市社会史。2010年より京都文化博物館学芸員。主な著作に「中世前期における禁裏駕輿丁の存在形態」(『藝能史研究』2009号、2015)、「室町期における北野祭礼の実態と意義」(『変貌する北野天満宮』、平凡社、2015)、「戦国時代の京都都市民に関する点景」(『図録 戦国時代展』、江戸東京博物館・京都文化博物館・米沢市上杉博物館・読売新聞社2016)。

一、北野天満宮の神輿と朝廷



石製灯籠 (慶応三年 禁裏駕輿丁・安本秀綱奉納)

北野天満宮は天皇、あるいは朝廷との結びつきが極めて緊密です。それは永延元年(九八七)八月五日に、「天満天神」という勅号(朝廷からの称号)が下されたこと、またこれと同時に北野における祭礼が勅祭(朝廷が主催する祭礼)となったことが物語っています。この後、寛弘元年(一〇〇四)に至り、一條天皇が北野天満宮へ行幸し、ますます朝廷と天満宮の繋がりは密接化していきます。現在、北野天満宮に伝わる

第一鳳輦、第二鳳輦が、それぞれ村上天皇、一條天皇の寄進であるとする伝承は、古代以来の朝廷との関りの深さを示す重要な言説といえるでしょう。さらに、朝廷と北野天満宮との密接な結びつきを示す事実が北野祭礼の中に存在します。祭礼において神輿を昇^かく人々がそれです。実は北野祭礼における神輿は、朝廷に所属する禁裏駕輿^{きんりかやう}丁によって昇^かかれ、渡御されるのです。

この禁裏駕輿丁は、左右近衛府・左右兵衛府の四府に所属することから、「四府駕輿丁」とも呼ばれますが、通例は、天皇が御所から外出する際、天皇が乗る輿を昇^かくひとびとでした。近衛府・兵衛府の中から、膂力(力の強い人々)が選ばれ、天皇の安全な移動を担っていたのです。

このような禁裏駕輿丁の北野祭礼への勤仕は、応仁・文明の乱によって祭礼が中断に追い込まれるまで続き、さまざまな歴史史料により当時の姿を知ることができます。一見すると、この段階で禁裏駕輿丁と北野天満宮の関係は切れてしまうように思われますが、決してそういうことはありません。



村上天皇御寄進 第一鳳輦 (中央) 一條天皇御寄進 葱華輦 (右側)



拝殿に安置された第一鳳輦（村上天皇御寄進 中央）、葱華輦（一條天皇御寄進 右側輦）

中絶から四百年程後、孝明天皇の段階で北野祭礼は臨時祭として復興を遂げます。おそらくこの時にも、禁裏駕輿丁は祭礼に勤仕したと考えられ、再び北野祭礼と結び合うことになります。慶応三年八月に左近衛府駕輿丁の代表である安本秀綱という人物が寄進した石製燈籠が今も境内に残っていますが、これは幕末から近代における禁裏駕輿丁と北野天満宮の再接続を雄弁に物語っているのではないのでしょうか。

二、神輿の居場所

昨年無事に瑞饋祭が催行されました。京都の数ある秋祭りの先陣を切って行われるこの祭礼は、芋茎や野菜で精巧に仕立てられた瑞饋神輿が巡行されることで大変有名で、毎年多くのひとびとが見物に訪れます。その一方、同時に北野天満宮の神々を乗せた三基の神輿が渡御されることは極めて重要です。獅子舞を先頭に長い長い列を組み、神幸と還幸がなされているのは、戦国時代の動乱の最中で停止におこまれた、古式の北野祭礼の姿をなぞっています。

普段、北野の神輿は境内にある蔵の中に安置されています。祭礼の期間に入るとこれを持ち上げながら拝殿の上にあげ、数々の装飾品を取り付けます。そして祭礼当日を迎えると拝殿から再び前庭に出され、神幸に備えます。

この神輿をめぐる手続きは大変手間がかかります。合理的に言えば、最初から前庭に引き出し、そこで装飾の取り付けを行うほうが簡便に諸手続きを行うことができます。一・五トンを超える重さを持つ神輿は、なるべく平地に置い

たほうが運び出すときの危険も少なくなり、手間もかかりません。

しかし北野天満宮は、その方法をとらず、神輿を一度は拝殿の中に置き、祭礼に関わる諸事を行うのです。

このことは、前近代の北野天満宮では神輿を拝殿に安置させていたことと関わりがあるでしょう。かつての天満宮では神輿を御神体の近くに安置させ、神輿自体に信仰を寄せる祈りの形があったのです。現在の祭礼の形は、かつてあった信仰に敬意をもち、その姿をなぞりながら実施されているのです。



神幸祭にて拝殿から出御する神輿（第一鳳輦）

三、「三年一請会」——「神輿を修理する」という神事

物体としての神輿は永久ではありません。神輿渡御の途中で破損することもあるれば、経年によって劣化してしまうこともあります。そのため、一般的に、神輿は定期的に造りかえられ、その行為は時の権力者のうしろだてのもと行われる大事業となります。

もちろん、天満宮の神輿に対しても造替がなされることはありますが、それよりもお特徴的な儀礼が「三年一請会」という会式です。天満宮の神輿は原則的に三年に一回の割合で破損箇所を調査し、修復を加えながら維持されてきました。この一連の修復行為が、神輿に宿る威勢を回復する儀礼として定着していたのです。

神輿は、木工芸、金属工芸、染織工芸の高度な技術が結集して成り立っています。三年に一度、定期的に修理を行うことは、これらを担う職人たちに定期的に技術向上の機会を与え、安定した収入を確保することにもつながりました。

とくに北野天満宮の神輿は各種の幕や水引が華麗で、染織工芸を担う織手が重用されました。彼らは大舎人織手と呼ばれる人々で、後に西陣で織物を担う人々につながっていきます。

つまり、現在につづく西陣織の発展を支えたものの一つには、三年一請会をはじめとした北野天満宮の神輿をめぐる営為があった、ともいえるでしょう。

四、神輿に宿る美意識

北野天神縁起の中には、「八月大祭」として祭礼の場面を描くものがあります。そこには、旧暦八月の夕方頃、八乙女たちが神輿にとりつけられた綱をとり、本社に還幸していく行列が描かれています。

詞書には「神輿がだんだんと近づいてくると、そこにほどこされた荘厳が目の前に輝きだし、信仰がなおさら深まって行く」という一節があります。この記述は、神輿の華麗な飾り付けが、多くの人々の心を捉え、感動を与えていたことを伝えています。

戦国時代の動乱で、平安時代から続いてきた北野祭礼は中断してしまいます。そのため、今ではもう当時の実態を詳細に知ることは困難です。しかし、ここまで述べてきたように、本来の北野祭礼は神輿とその荘厳のあり方に力点があり、人々はそれをしっかりと受け止めていたのです。このことこそ、復元的に祭礼を考えていく上で、もつとも基本的な始点ではないでしょうか。



第一鳳輦ほか渡御の様子



北野祭礼図絵巻に描かれた禁裏駕輿丁によって昇かれた北野の神輿

仮称「北野文道会館」上棟式を斎行 「文道大祖 風月本主」の精神がこもる文化発信基地を目指す



今秋竣工予定の仮称「北野文道会館」

楼門西側で建設が進んでいる「北野文道会館」の上棟式が十一月七日午前十時から工事関係者らの参列の下、斎行された。これまで「仮称神社会館」として正式な名称はつけられていなかったが、菅公の御心を表すにふさわしく、国内外に菅公精神に基づく伝統文化などを発信していく基地にしたいとの願いのもと、この日、「北野文道会館」の名を初めて披露し、上棟式を迎えた。

式典では祝詞奏上の後、棟木祓の儀が厳かに行われ、宮司・工事関係者が次々玉串拝礼して、上棟を祝い、今後の工事の無事な進捗を祈願した。

施主の宮司が「天神さまが明治以降失ったものを調査・研究して取り戻し、次の世代に繋いでいくため現在頑張っているところです。老朽化している今の社務所では手狭であり、文道会館は、一階に社務所を入れた文化発信のホールを作り、二階には貴賓室なども設ける予定です。本日上棟式を迎えられたのは、皆さまのおかげです」と挨拶し、奥谷組の千田日出雄社長の音頭で参列者が乾杯した。

「北野文道会館」は、天神信仰・文化発信の基地として建設されており、鉄筋造り（地上二階・地下一階）ながら木造の雰囲気を取り入れて周囲の景観に溶け込む建物とし、平成二十九年秋の竣工予定。会館名に「文道」の名が採り入れられたのは、御祭神の菅公が平安時代から「文道大祖 風月本主」と崇められており、「文道」は菅公精神を象徴する言葉であり、国の内外に天神信仰や文化を発信していく基地ともなるこの会館にふさわしい名である」として宮司が提案している。

「文道大祖 風月本主」の言葉は、平安時代の歌人で文章博士の大江匡衡が寛弘九年（一〇一二）に天神を祀った願文の中に出ており、学問や詩歌の祖神として菅公を称えた言葉。いわば天神信仰の源といえるもので当宮の楼門にも扁額にして掲げられている。



北野文道会館 上棟祭



清祓の儀



関係者多数が参列

錦秋の史跡御土居

「もみじ苑」開苑

多彩な奉納行事で賑わう

十一月十二日

上七軒の舞妓さん あでやかに日本舞踊の奉納

上七軒歌舞舞会の舞妓さんによる日本舞踊の奉納がライトアップ初日の十一月十二日午後五時から御土居内の特設舞台で行われた。舞妓さん三人が、ライトに映えるもみじを背に「もみじの橋」「重ね扇」「京の四季」の三曲をあでやかに舞い、もみじ狩りの参拝者の目をくぎ付けにした。



十一月十三日

三大学の学生のアンサンブル

京都工芸繊維大学・京都府立医科大学・京都府立医科大学の学生による合同演奏会が、十一月十三日午後五時から紅梅殿で行われた。管楽器や弦楽器のアンサンブルで、美しい音色が参拝者を魅了した。



十一月二十三日

古武術の演武奉納

天神真楊流柔術を始め浅山一伝流体術・甲源一刀流剣術・正木流万力鎖術の古武術四流の演武奉納が十一月二十三日午後二時から神楽殿で行われ、激しい気合の中、繰り広げられる古武術が参拝者の目をくぎ付けにした。



奉納連歌

平成二十八年十一月五日

於 北野天満宮紅梅殿張行

宗匠 光田 和伸
執筆 丸山 景子

賦山何連歌

初折 表

宮司 重十九

幸祈り北野の庭に菊の盃
道のまことを置けや露霜

和伸

月愛づる良き歌人の集ひ来て
むらくもさそふ光ありとも

裕雄

ゆるやかに流るる川をのぼるらん
雪見の酒の香もほのかなる

満千子

寒けさの松が枝高く鶴のゐて
明るき丘に冬すみれ咲く

和行

初折 裏

敦子

山里もやうやう景色変はりゆく
袖をつらねてあたたかきころ

孝子

わびぬれど霞のむかふ晴れずして
かげろふの野に立つは面影

武彦

垣間見し紫匂ふ君ははも
螢に浮かぶ姿忘れず

光代

景子

裕雄

和伸

景子

裕雄



十一月五日

「もみじ連歌会」開く―京都連歌の会

京都連歌の会の「もみじ連歌会」が十一月五日午後一時から紅梅殿で開かれ、「賦山何連歌」で詠んだ作品を奉納した。

当宮は、中世から江戸時代にかけて連歌会所が置かれ、連歌会が盛んに張行されてきた連歌ゆかりの神社。春の「梅ヶ枝連歌会」とともに、この「もみじ連歌会」は、京都連歌の会の恒例行事となっている。



十一月十九日

北野天神もみじ寄席

露の五郎兵衛一門会の「北野天神もみじ寄席」が十一月十九日午後三時から社務所大広間で開かれた。露の瑞・雅・雅・紫・眞・都・吉次・団四郎の七人の落語家が、古典・新作の落語で一席伺い、満員の会場は爆笑の連続だった。また、女優でもある露のさきようが舞を披露した。開演に先立ち午後二時から境内の初代露の五郎兵衛碑の前で出演者参列のもと碑前祭が斎行され、一門の益々の隆盛を祈願した。



十一月二十五日

オカリナとギターの共演

ギター奏者阿武野逢世さんの弾き語りとおカリナ奏者鈴江先子さんのコラボレーションが縁日の十一月二十五日午後五時から紅梅殿であり、ナイター参拝者の耳を楽しませた。



十一月二十日・二十七日

二大学学生の演武奉納

「よさこいサークル風竜舞伝」
「京炎そでふれ花風姿」

京都文教大学の「よさこいサークル風竜舞伝」の演武奉納が十一月二十日、同志社女子大学の「京炎そでふれ花風姿」の演武奉納が同二十七日、午後五時から紅梅殿前行われ、元気のいい学生の演武が参拝者の足を止めさせた。

十一月十二日

北野天神太鼓会の和太鼓奉納 仁和・翔鸞両校児童と共演

神若会北野天神太鼓会の和太鼓奉納が十一月十二日午後六時から紅梅殿で行われた。同会が指導する仁和・翔鸞両小学校の和太鼓クラブとの共演もあり、かがり火がたかれる中、勇壮な太鼓の音が多く、参拝者の耳を楽しませた。同会の和太鼓奉納は、二十日、二十五日にも行われた。



風やその長良の浪を起こし去り
心ぞすがしひびく鐘の音
文机に法の反故をためおきて
月に祈らむ世の幸ひを
秋の星遠く沈めば魂鎮み
うらがるる葉に露も添ひたり
句ひ立つ宮居に花の蘇り
道々に聞く鶯の声

名残 表

山岨の笹うらうらまねをして
待つ間もをしみ旅立つか君
頒布ふりぬ乱るる心押さへかね
もゆる思ひをいかにせよとや
にぎはひの祭の町をたどりつつ
花橘か風の筋ある
ほととぎす哀しと聞くも汝がさだめ
低き軒端を負ひ売りのゆく
かまびすし外国行方いづくにか
ことなきをこめ真田紐編む
おもしろの昔伝ふる翁あり
鼓に合はせ舞ふ人たれぞ
月に聞く砧の音にしのび泣き
心強かれ秋もゆくらむ

名残 裏

垂るる穂に水したたりていぶき吹く
晴れやかに生きにぎにぎしくぞ
よそほひも新なる庭牛臥して
眠り笑ひて山はかはらぬ
ほのぼのと峯に霞のたなびけば
旅を誘ふかげろふの道
選ばれし碑のうたに満つる花
鈴の音のどか遠近の春

句挙

重十九	一句	幸子	三句	光代	三句
和伸	三句	敦子	三句	景子	二句
裕雄	四句	節子	三句	稔	三句
満千子	三句	孝子	三句	まり絵	二句
和行	四句	武彦	三句	明子	二句
宣行	一句				

和伸	和行	満千子	まり絵	明子	敦子	幸子	孝子	景子	和伸	裕雄	満千子	和行	宣行	武彦	孝子	光代	稔	和行	裕雄	景子
----	----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	---	----	----	----

北野の光

斎行された祭典・行事

〈十一月～十二月〉

一條天皇行幸始祭を斎行

一條天皇行幸始祭を十月二十一日午前十時から本殿で厳かに斎行した。

寛弘元年（一〇〇四）のこの日、一條天皇が初めて当宮に行幸されたことを寿ぐ祭典で、宮司が祝詞を奏上し、皇室の弥栄・国家の安泰・天神信仰の更なる昂揚を祈願した。

行幸始祭



大園茶会



第八回北野大園茶会

第八回北野大園茶会（京都市茶業組合・京都市茶業青年会主催）が、十月十六日午前十時から絵馬所で行われた。

園茶は、名前を秘した五種類のお茶を飲み比べ、茶の種類を当てるという室町時代に流行した優雅な遊びで、今年は約八十人が参加した。玉露・煎茶各二種類・粗茶一種類の葉のおいを嗅いだ後、各茶を三回ずつ味わって茶の種類を当てるもので、参加者は神妙な顔つきで茶を味わい、首をかしげたり、うなずいたりしながら茶の種類を紙に書き込んでいた。最高得点をあげた人に北野天満宮賞が贈られた。



「去年の今夜清涼に待す」菅公偲び余香祭、古式ゆかしく献詠披露

「重陽後一日」の名詩をつくられた菅原道真公を偲ぶ余香祭が十月二十九日午後二時から本殿で斎行され、引き続き恒例の献詠披露式が古式ゆかしく行われた。

昌泰三年（九〇〇）九月、右大臣だった菅公は清涼殿の「重陽の宴」に召され、「秋思」の詩篇を詠まれ、醍醐天皇から御衣を賜った。一年後、菅公は配流先の太宰府において、その折の栄華を追憶され、「去年の今夜清涼に待す 秋思の詩篇独り腸を断つ 恩賜の御衣今茲（ここ）にあり 捧持して毎日余香を拝す」の「重陽後一日」の名詩をつくられた。

余香祭は、この故事にちなむ祭典で、重陽の節句の旧暦九月九日（ここの）を新暦に換算し、毎年この日に斎行されている。

献詠歌披露式は余香祭の後に

行われる恒例行事で、今年の

兼題は「跡」。全国から寄せられた献詠の中から濱崎加奈子氏（歌人、公益財団法人有斐斎弘道館館長）選による十三首を車座になった向陽会（冷泉為弘会長）の会員ら六人が綾小路流の独特の節回しで披露した。神前には白と黄の菊花が供えられ、神職・向陽会会員は烏帽子に小菊をかざして祭典の奉仕に当たった。



余香祭

新穀供え、五穀豊穣に感謝 新嘗祭厳かに斎行



五穀豊穣に感謝する新嘗祭を十一月二十三日午前十時から本殿で氏子崇敬者らの参列の下、厳かに斎行した。新嘗祭は、天皇が天神地祇に新穀を供え、五穀豊穣に感謝する飛鳥時代からの祭儀で、現在も宮中重要祭祀として続けられており、当宮で

も毎年この日に斎行している。神前に今年収穫した稲穂や米、醸造されたばかりの白酒を始め海や山の幸を献じ、宮司が祝詞を奏上、巫女が「紅わらべ」を舞い、豊作に感謝し、氏子崇敬者の家内安全・家業繁栄を祈願した。

新嘗祭



七五三詣 子どもの参拝で華やぐ境内



秋は七五三詣のシーズンであり、十月から十一月末にかけて、親子連れの参拝者で賑わった。

七五三詣のピークは例年通り十月の終わりごろからで、とくに土・日曜

日や祝日を中心に親に伴われた羽織・袴、振袖姿の子どもたちで賑わい、境内は華やぎを見せた。昇殿参拝してご祈禱を受けた後、授与品の千歳飴を授かった子どもたちが境内のあちこちでうれしそうに親たちの向けるカメラの前でポーズをとっていた。

七五三詣



◆平成二十八年余香祭献詠披講選歌「跡」

君とめた学舎すでに跡もなく
我が原点に秋雨の陰し
若狭 静一

遠き日に炭を焼きたる 窯跡に
山百合咲きて 匂ふかすかに
波多野 千寿子

跡慕ふ 諸人どもの 残せしを
いまの世にこそ 活かすよろこび
今井 輝子

往き交ひし いにしへの人の 跡絶えて
ただ遠白し 雪のみ吉野
田口 稔恵

なき父の 水茎の跡を なかむれば
赤き心に 流れし熱さ
塩小路 光胤

北野なる神の流れに跡尋めて
また歌遣らむ 曲水の宴
選者 濱崎 加奈子

童らが 日に異に祈る 撫で牛の
頭の手跡 重ぬ年月 賀茂御祖神社権禰宜 田中 明仁

としへても 秋のあはれをつつみこみ
跡なほしるき 神苑のお土居や 八坂神社禰宜 橋本 正明

余香祭 御跡をしのお 菅公の
神威あまねく 菊花かをれる 神田神社宮司 平野 修保

いにしへゆ 学ひの道は 丞相の
御跡仰きて 今に栄ゆる 御霊神社宮司 小栗栖 元徳

みあらかに 菊の香のせて たてまつる
ありし世の跡 おもふうたくさ 向陽会会長 冷泉 為弘

菅公のおはせし日隈び 紅葉宴
歌人集ふ 御神意の跡 北野天満宮宮司 橘重十九

平成二十九年 献詠兼題

▼一月 野	▼二月 紅梅	▼三月 地
▼四月 旅	▼五月 葵	▼六月 傘
▼七月 流	▼八月 兄	▼九月 桂
▼十月 酒	▼十一月 間	▼十二月 手
御旅所 籬	余香祭 雲	

迎春準備、整いました

楼門に「酉」の大絵馬奉掲

重さ百二十キロ、正月の香漂う



「文道大祖 風月本主」の扁額が掛かる楼門に、来年の干支の酉（とり）を描いた大絵馬が十二月八日午後、神職らによって取り付けられた。

この酉の大絵馬の原画は、例年通り日本画家の三輪晃久画伯によって描かれた。絵馬は無垢材のヒノキで造られ、幅三・三メートル、高さ二・二五メートル、厚さ三・五センチ、総重量百二十キロという大きなもの。足場を組み、神職・宮大工ら十人掛かりで取り付け付けた。師走初旬ながら新春の香漂う取り付け作業を参拝者が「もう、正月だね」と、感慨深そうに見つめていた。

楼門の大絵馬



「思いやりの心」で接して… 初詣参拝者に向け巫女の心得学ぶ

初詣参拝者の応接に当たる正月巫女奉仕者の研修会が十二月十日午後、社務所大広間などで行われ、約九十人の学生が神職から参拝者の接し方などについて学んだ。正月の巫女奉仕を志願した学生は、まず白衣・緋袴の巫女姿になって本殿に昇殿参拝し、お祓いを受け、無事に奉仕できるように祈り、気持ちを引き締めた。境内を歩いて神職から主な社殿の説明を受け、社務所大広間で「思いやりの心を大切に接して下さい」と、接遇の最も大切なポイントを教えられ、続いて当宮の由緒などをまとめたDVDを観賞。さらにお守・お札の概要を学び、実際に受け渡しの練習なども行った。短期間とはいえ、正月には直接参拝者と向き合い、応対しなければならぬだけに学生たちは終始真剣な表情で耳を傾け、メモをとっていた。

巫女研修



事始め——正月の縁起物・大福梅の授与が始まる

大福梅授与



元旦の祝膳に使われる大福梅の授与が事始めの十二月十三日朝から始まり、初日から大福梅を求める参拝者で賑わった。大福梅は、元旦、招福息災の祈り込め白湯や初茶の中に入れて頂く当宮ならではの縁起物として人気が高い。平安時代、村上天皇の天曆五年（九五二）、都に疫病が流行、天皇も罹られたが、このお茶を飲まれて平癒したとの故事にちなんでいる。境内約千五百本の梅の木から採取した梅の実を塩漬け・天日干しにし、裏白を添え、奉書紙に包んで授与した。授与所には「縁起のよい大福梅を頂き、無病息災を祈るのが我が家の正月の習わし」という参拝者の行列ができた。また、この日から、楼門に奉掲した大絵馬を小型にした干支絵馬の授与が枚数限定で始まり、大福梅と合わせて求める人も多かった。



北野天満宮 紅梅殿結婚式

KITANOTENMANGU SHRINE

日本文化の発信地、紅梅殿からはじまる「家族の日」

貞観元年(859年)御祭神菅原道真公(菅公)が15歳の元服の折、母君は菅公の前途を祝し、『久方の月の桂も折るばかり 家の風をも吹かせていがな』の和歌を詠み励まされました。我国で最初に家風を表されたのが、菅公の母君であったと伝えられています。立派な家風をもった穏り多い新たな家庭を築かれますようにとの願いをこめて、菅公邸宅ゆかりの紅梅殿での神前結婚式から新しい「家族」がはじまります。



神前結婚式

早咲きの梅開花 季節外れの開花に驚きの声



寒紅梅

例年十二月から一月にかけて開花する早咲きの梅が、本年は例年よりおよそ二か月も早い十月二十一日に一回開花しているのを確認した。場所は御本殿北側の十二社前で、品種は寒紅梅。一足も二足も早い春の訪れに参拝者も驚きの様子であった。

ボーイスカウト第八十五団より

●ビーバー・カブ・ボーイ隊合同で自慢の料理対決

ボーイスカウト京都第八十五団（本部当宮）所属のビーバー隊・カブ隊・ボーイ隊合同による創作料理対決が、十一月六日午後二時よりスカウトハウスで開催された。各隊員とリーダーによって各隊が自分たちで考えた「炊き込みごはん」を調理し、味や見た目・調理方法などを競い合った。ビーバー隊は「定番の炊き込みごはん」、カブ隊は「カレー味の炊き込みごはん」、ボーイ隊は「鮭ときのこの炊き込みごはん」と各隊それぞれ趣向を凝らした料理を作り、調理後は皆で試食をした。各隊の垣根を越えて親睦を深めた一日となった。



神若会だより

十月三十日、北総合支援学校で例年行われている上京区民ふれあい祭りが開催され、北野天神太鼓会が和太鼓の演奏を行った。老若男女問わず幅広い来場者が賑やかに過ごす中、特設ステージにて各パフォーマンズが披露され、区民の交流がいつそう深まる一日となった。

また、十一月十二日には京都市東山区にある高級ホテル「フォーシーズンズホテル京都」にて、裏千家教授であるランディチャネル宗榮氏の茶道教師二十周年・出版記念祝賀会が行われ、北野天神太鼓会が会に花を添えるべく招待された。会場には約二〇〇名の参加者が集まり、開業間もない高級ホテルの華やかな雰囲気の中、二曲を演奏し、会のオープニングを大いに盛り上げた。



上京区民ふれあいまつり



フォーシーズンズホテル京都

天神さん 思い出写真館



写真には「明治三十三年六月仮殿前」とある。一千年大萬燈祭（同三十五年春齋行）に向け、本殿から御神霊が仮遷宮された仮殿前で撮影されたものである。記録を見ると、仮遷宮式は六月十三日夜から翌十四日未明に斎行されており、この写真は、仮遷宮を終えたばかり、十四日朝の奉祝祭前に撮影された一枚らしい。

仮殿があるのは、現在紅梅殿が建っている辺りで、右手に見えるのは現在地に移動する前の絵馬所だろう。

紋付、袴姿の人が両側にずらり並んでいる。式典はすでに始まっているのか、右側の参列者は仮殿に向かって頭を下げている



が、左側の人は何故かカメラの方を見ている。ちなみにこの朝の天候は「麗晴ナリ」。百十六年前の当宮の「ハレ」の様子を撮影した一枚をしばし御覧下さい。

献詠

濱崎加奈子選

菅公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠われました。室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに柿本人麻呂と山部赤人と並んで「和歌三神」と称えられています。

十月「関」

母強し小五のわれと下関

迎へし父は白木の小箱

関ヶ原戦は一日もかからずに

終ててむなしく月日は過ぎる

関ありてこそ人の世おさめけり

いにしへびとの思ひいかにと

源平の琵琶の語りで今迫る

壇の浦ゆ関は旗めく

不可解な関数のごとく人生に

答へ見るだす齢となりぬ

逢坂のゆふつけ鳥の声きけは

旅立つ空もいと清し

【評】

人生の関、また、地名を詠む方が多かった。関のつく地名は各地にある。できれば、単なる地名として扱うのではなく、その地の「関」たるゆえん、その歴史に思いをはせられるような歌であってほしい。

十一月「憂」

憂れたみの世にも楽しく仰ぐ空

真澄みて清き白雲ひとつ

人偏をつければ憂ひも優しさに

弱さ強さを合はせ持つ人

郡上節下駄が地を蹴る憂も蹴る

八幡城下徹夜で踊る

琵琶の音は憂の調べ勝負迫る

命かけ抜け歴史物語

世の常と憂ひてもなほ前見すえ

なごめるものに心みたしつ

【評】

辛い、悲しい、苦しいなどの意味をもつ語で、古来多く詠まれてきた。にんべんを付ければ「優しい」になるという歌も見られた。万葉集の「世の中を憂しとやさしと思へども飛び立ちかねつ鳥にしあらねば」の「やさし」は肩身がせまい、恥ずかしいの意。

十二月「鐘」

省みるこのひと年や鐘の韻

雪の新たに明きしののめ

田植え終え農具仕舞へばたそがれて

帰路急ぐ背なに晩鐘を聞く

年の暮れに初めて訪ふ西欧の

旅は英国ビックベンもあり

鐘の音は五臓にしみて思ひとも

生かされるいまうれしかりけり

除夜の鐘倍音去りし年の節

無我の境地で時を聴き越す

除夜の鐘炬燵で聴きし頃の顔

みんないい顔何処の家も

百八つ心の憂さもはれ行けと

祈りをこめし鐘ひびきけり

【評】

除夜の鐘の音に関する問題がわきおこっている。節目の鐘の音を騒音と感じるのか、心を澄ませて感謝の時間にできるのか。いまのような時代こそ、和歌のもつ力、ことばの響きや、古人の心に耳を傾ける必要があるだろう。

● 献詠奉納についての問い合わせは、北野天満宮献詠係までご連絡ください。

北野天満宮講社
入講のご案内

本講社は心から「天神さま」を慕い、大切に考えていただく崇敬者の集いです。

神を敬い人を愛する優しい心から「天神さま」を大切に想い、本講社の諸活動にご賛同いただける方はどなたでも入講できます。

本講社は年会費による登録会員制となっておりますので、入講の方には毎年継続のご案内を差し上げます。

《主な活動事業》

- ・「講社大祭」斎行
- ・国宝本殿を始めとする文化財並びに境内風致の維持管理
- ・境内施設の整備拡充

《会員の特典》

- ・毎朝ご神前にて会員の皆様の家内安全・学業成就・諸願成就を特別に祈禱いたします。
- ・講社大祭のご案内を差し上げます。

《会員種別と会費（年額）》

特別名誉会員	三万円以上
名誉会員	一万円以上
有効会員	五千円以上
正会員	三千円以上
普通会員	千円以上



入講を希望される方は、北野天満宮社務所までご連絡ください。（電話〇七五―四六一―〇〇〇五）



「社頭古絵図」部分

天満宮 歴史の一齣

京都大学名誉教授

藤井 讓治

「社頭古絵図」(三)

「社頭古絵図」に描かれているそれぞれについてみていこう。

まず、画面最上方にある五つの円相は、中央に薬師如来、左右に金輪聖王・愛染明王、左端に慈恵大師、右端に不動明王が描かれている。

一般に中世に作成された垂迹図では、その後背に本地仏を描く。ところがこの図では北野天神の本地仏とされる十一面観音菩薩ではなく、薬師如来がそこには置かれている。

薬師如来が中央に描かれた背景には、北野天満宮と比叡山延暦寺との関係が想定さる。延暦寺根本中堂の本尊は最澄作の薬師如来である。一方、北野天満宮の別当寺は、草創期ら延暦寺末の曼殊院門跡であった。このことが、この絵図中央に薬師如来を描かせた背景にあらうと、西山克さんは推定する。

こうした比叡山との関係は、左端に比叡山中興の祖と仰がれる慈恵大師良源（九一二―八五）が描かれていることにもみえる。

これに加えて「社頭古絵図」の戌亥の隅に描かれた慈恵大師のすぐ右傍に、斧をかつぐ烏天狗が慈恵大師に向かって合掌した姿で描かれている。この

烏天狗は中世の都を震撼させた愛宕山の太郎坊と考えられ、その太郎坊さえ慈恵大師にはかなわないと、この絵は語っている。戌亥の方角にいたとされる大天狗太郎坊から慈恵大師は北野社を守る役割をになっていることになる。

また鬼門の位置に置かれた不動明王も社に魔性のものが進入することを防いでいる。

薬師如来の左右の金輪聖王・愛染明王について、西山さんは、向かって右に描かれた金輪聖王は、本来、金銀銅鉄の四種類の転輪聖王のなかでも最高の位置にあり、いかなる罪障の者でも救済する至高の力を持つ仏であるが、中世社会においては金輪は「禁裏」のアレゴリーとして天皇をも意味していたとされる。

一方、向かって左に描かれた愛染明王は、一般には愛欲など心の迷いがそのまま悟りにつながることを示す明王とされるが、室町將軍家では將軍の身体を守護するホトケとして、深く信仰されてきた。

このように、愛染明王が室町將軍の身体を守護するホトケであり、また金輪聖王は当時、天皇のことを意味することに注目し、天神は「足利家の守護神」ともいふべき地位を占めていたことを踏まえ、前者の愛染明王は足利將軍を、後者の金輪聖王は天皇であらうと推測され、曼荼羅全体としては、両者は、天神を背後から護る構成であったとされている。

全国屈指の 梅苑を公開 豊臣秀吉公ゆかりの 歴史的遺構 史跡「御土居」 も同時公開

梅花祭

平成二十九年二月二十五日

〔祭典〕午前10時～午前11時

〔野点茶会〕午前10時～午後3時

◎野点拝服券＝一、五〇〇円

（拝服券・宝物殿拝観券・撒餌引換券付）

菅原道真公は承和十二年（八四五）六月二十五日にご誕生になり、延喜三年（九〇三）二月二十五日に薨去されました。この縁により、毎月二十五日は御縁日としてご遺徳を偲び、特に祥月命日に当たる二月二十五日は「梅花祭」と称して祭典を厳肅に営んでいます。

この日は境内において、午前10時より午後三時まで上七軒の芸妓・舞妓による「梅花祭野点大茶湯」が催されます。

全国屈指の梅苑を公開
梅苑公開
豊臣秀吉公ゆかりの歴史的遺構 史跡「御土居」も同時公開

北野天満宮
東風吹かば 句ひおこせよ 梅の花
主なしとて 春を忘るる

梅花祭
上七軒の芸妓・舞妓による
野点大茶湯

菅原道真公のご遺徳を偲び

平成29年2月上旬～3月下旬
〔入苑時間〕午前10時～午後4時
◎拝観料（茶菓子付） 大人（中学生以上） 700円
こども 350円

平成29年2月25日（土）
〔祭典〕午前10時～午前11時
〔野点茶会〕午前10時～午後3時
◎野点拝服券/1,500円（拝服券・宝物殿拝観券・撒餌引換券付）

管公御歌

東風吹かば句ひおこせよ梅の花

主なしとて春を忘るる

「文道大祖 風月本主」と仰ぎ親しまれる管公は、殊のほか梅を愛されました。

約二万坪の境内には御神慮を偲び、およそ五十種、約千五百本の梅の木があり、二月上旬から三月下旬にかけては寒さの中、春を告げるかのように花開き、境内一円馥郁な香りで包まれます。

また境内西側に広がる豊臣秀吉公が造られた史跡「御土居」も特別公開致します。

◎公開期間／平成二十九年二月上旬～三月下旬

◎入苑時間／午前10時～午後4時

◎入苑拝観料／おとな＝七〇〇円

こども＝三五〇円

北野天満宮 宝物殿特別公開

宝刀展Ⅳと鬼神像

北野天満宮宝物殿は千有余年の天神信仰を物語る貴重な神宝類・奉納品を収蔵しています。天皇の宸翰をはじめ、絵巻物、書画、刀剣、絵馬などその数は膨大な量を誇り、文化財の宝庫、天神美術の殿堂と呼ばれる所以があります。期間中は、およそ四十振の宝刀と重要文化財「十三鬼神像」など展示予定。

鬼切丸 菅公の守刀

鬼切丸 別名髭切

太刀 安綱
重要文化財

重要文化財「鬼切丸」、菅公の守刀「猫丸」ほか三十三振一挙公開

重要文化財「十三鬼神像」



北野天満宮宝物殿は千有余年の天神信仰を物語る貴重な神宝類・奉納品を収蔵しています。

天皇の宸翰をはじめ、絵巻物、書画、刀剣、絵馬などその数は膨大な量を誇り、文化財の宝庫、天神美術の殿堂と呼ばれる所以があります。

期間中は、およそ四十振の宝刀と重要文化財「十三鬼神像」など展示予定。

※「鬼切丸」は二月四日より展示予定

◎開館期間

平成二十九年一月二十一日～三月下旬

◎開館時間／午前九時～午後四時

◎入館料／おとな＝三〇〇円

中高生＝二五〇円

こども＝一五〇円

宝刀展Ⅳと鬼神像

北野天満宮 宝物殿特別公開

千有余年の天神信仰を物語る貴重な神宝類



梅の枝「思いのまま」

元旦からの授与



◆頒布開始 平成二十九年元旦より
◆初穂料 一本一〇〇〇円(但し、無くなり次第頒布終了)

一昨年の初天神で約六十年ぶりに復活した招福の梅の枝「思いのまま」を本年も元旦から授与する。
この枝は、千五十年大萬燈祭(昭和二十七年)の年に初天神で参拝者に授与していた経緯があり、平成二十六年の初天神で約六十年ぶりに授与を復活させた。

「思いのまま」には、菅公を偲ぶ梅花祭で神前に供える特殊神饌の調製に用いる厄除けの玄米が入ったヒョウタンを取りつけ、家庭に春の訪れと幸せを呼んでほしいとの願いを込めている。



招福厄除けの社 北野天満宮の節分祭

◆節分特別授与品の頒布

●福豆の授与

三種類(春の舞妓・鬼・福の神)

初穂料
各一袋 二〇〇円

※豆袋の中には「当たり」札入り

●災難厄除箸の授与

福豆とともに、日々の災難あるいは厄除けを祈願するお箸

福豆三袋+箸三膳セット(五〇〇体限定)

八〇〇円

●災難除の御札・銀幣の授与

災難除の御札

災難除の御守

銀幣(御札と御守と御幣のセット)

一体 三三〇円
一体 三五〇円
一体 九〇〇円

二月三日
午前十時



福豆三種



御縁日 境内ライトアップ



毎月25日は天神さんの御縁日。
夜9時まで境内特別ライトアップ!

定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円(1年分)
季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。

今昔マップ



平安京

当宮は平安京の乾に位置し、古くより天のエネルギー、パワーの働く北野の地に祀られています。

平安京の内裏、大極殿北西に位置し三光門の真上に北極星が輝き、天子様が北極星を拝する聖なる社でした。

平安京の大極殿(遷都より600年の間)は今の京都御所の西にありました。

紙屋川、堀川に挟まれ、すぐ北西に当宮が建てられています。

- 平安京(大内裏)
- 大極殿(室町時代迄の平安京)
- 京都御所(室町時代以降)

